

○第2回久米南町学校教育審議会 概要

開催日時：令和5年3月6日（月） 午後6時00分～午後7時40分

会場：久米南町文化センター楽屋2

出席者：委員 10名（熊谷委員 神田委員 下山委員 青木委員 田中委員
中田委員 清水委員 河合委員 小川委員 漆間委員）
教育委員会 4名

欠席者：1名（山中委員）

会長挨拶、配布資料説明後、審議に入る。

委員 設計ですが、前回の議会で2023年から2025年までの2年間で5,500万の予算があったと思いますが、そういった絡みで考えると必然的にリミットが決まってくるような気がします。2025年度を超えてしまった場合、また予算を計上するということになるんですか。

事務局 おっしゃられる通り12月議会の補正予算で設計業務の債務負担行為を計上させていただいています。この債務負担行為は新小学校校舎の基本設計、実施設計業務に基づく予算です。この期間の中で設計業務を終えるという想定で債務負担行為をさせて頂いております。

委員 設計が1年かかって、国の申請が5月の年1回申請であるならば今年か来年に出さないと5,500万も無駄になる。早くやらないとダメになるという現状があるのは間違いないですか。

事務局 この期間のうちに、おそらく答申が頂けるであろうという想定で、いつでも設計に取り掛かれるように設計の委託契約ができるようにと、債務負担行為をさせて頂いております。

会長 私たちもできるだけ早く結論が出せるようにすれば取り掛かることが出来るということですね。

委員 答申は3点の結論が集まっていないといけませんか。1番と2番は結構密接で、2つだけの答申で先に設計を始めるというのは。

会長 3つまとめてがいいと思います。言われた通り、3つの問題は切り離しては考えられないので、回答していかないといけないことだと思います。まず重要なのは学校の形態をどうするかを議論して、ここを決められないと2と3へも続いていけません。前回、単独校と、小中一貫校、義務教育学校の3つの形態を説明してもらいました。3つの小学校が統合するということは決まっていますが、形態をどうするかが重要になってきて決まっています。県北の実態を含めてこの後、状況の説明をお願いします。その前に誤解があったら申し訳ないのでお話しさせてください。

単独校というのは3つの小学校が統合して小学校としてやっていくことです。小中一貫校は一貫という言葉が一度入ったら出られないというようなイメージを9年間持たれるかもしれませんが、そうではありません。小中連携校という意味合いも含めています。小学校で区切りがありますし、事情により転出、転入もできます。一貫校というか連携校、小学校、中学校の連携を強化した形態と思ってください。義務教育学校は完全に一つの学校です。職員室も一つ、校長先生も一人というふうの一つの学校で進めて行こうという新しいタイプの形態です。誤解を持っておられたらいけないので私の説明をさせていただきました。

委員 小学校と中学校が連携していく流れというのはずいぶん前からありますし、連携にもいろんな形がありますし、行事を一緒にやっというのがありますし、久米南町でも小学校と中学校の連携はやってきていると思います。そこを一步進めて小中一貫校というのが、別々の学校ではあるのですが、例えば学校の教育目標を同じにしたりカリキュラムを合わせて同じような活動ができるようにしたりというようなことです。小中一貫を目指している学校は管内でもだんだんと増えてきていると思います。その中でも新庄小、中は同じ敷地内にもともと小、中があり小中一貫校を立ち上げていっています。カリキュラムを一緒にする、小学校の先生が中学校へ、中学校の先生が小学校へ行って授業をしています。PTAの活動も同じようにされています。職員室を一つにしていますが、小中一貫校なので、小学校の校長先生、中学校の校長先生、小学校の先生方、中学校の先生方というふうに分かれています、部屋の中は一緒です。あと大きな流れとして義務教育学校、皆さんご存じのようにこの4月から旭学園になります。義務教育学校ですので校長先生はお一人です。さらに次の年の4月柵原です。津山市はいろいろな学校の規模や地域が広く、それぞれの地域の実態に合った学校種を模索しているという動きが始まっています。その流れの中で県内では義務教育学校というか、小中が一貫して9年間の教育を行おうとしている地域が出てきている状況です。ただ義務教育学校がいいのか、小中一貫校がいいのかというのは、それぞれの地域がしっかり話し合いをして決めて行かないといけないと思います。この先久米南町がどういう学校教育を目指すのかということから、どういう学校形態をとるのがいいのかを考えていけばいいと思います。

会長 県北の状況でしたが、ここまででご質問やご意見はありませんか。このように小学校と中学校が連携していかないといけないというのは久米南町だけでなく全国的な時代の流れとなっています。ただ今非常に不登

校の子が増えてきていて、特に小学校から中学校に変わった時に多くなっていて、中1ギャップと言われて、皆さん聞いたことがあるかもしれませんが、小学校から中学校への段差と言いますか、段差を無しにしてはいけません。発達に必要な段差は大切で、子供たちにとって乗り越えにくい段差、中学校になると勉強が難しくなったりとか、思春期もあつたりする中で、こういった中1ギャップをなんとかしないといけないと、ということは小学校と中学校の接続を滑らかにしないといけないということで、小中連携とか一貫ということが国の方針として示されてきているわけです。久米南町の小学校から中学校への接続の不登校という状況はどうか。

事務局 町全体の長期欠席者について、具体的な数はあげることはできませんが、確実に小学校では行けていたお子さんが中学校になって行けなくなった、それはいろんな要因が絡み合っていますが、数的には多くなっているのは事実です。これは全国的な変容で、久米南町の小さな町でも同じようになっています。久米南町では小学校、中学校の先生が、卒業するときや日常的に、引継ぎの会の時にも話し合いの場を持って一人一人の特性を中学校に伝えるという連携はしています。しているにも関わらず、中1ギャップと言われるように、中学校に行く学校に行きにくい子が増えるというのは事実でございます。

副会長 小学校は学級担任がいろいろな教科を教えていて、学級活動全体の中でその担任の子供を見ているというような活動が中心となっています。ですので中学校にあがった途端に、全ての教科に違う先生が入ってくる、ということで戸惑う子供さんが出てくるのではないかなと思っています。それを解消するためにも、これは個人の意見ですけど、小中一貫校で連携をする、例えば高学年になったらある程度教科担任を進めて行く。文科省も教科担任を進めて欲しいと出ていますけど、中学校の先生が授業を乗り入れるということで、子どもの特性とか様子が中学校の先生にもわかる、そういうことを踏まえたうえで、どう関わっていくか、より深く中学校の先生にも伝えられるかなと思います。今の単独校という状況の中で、多少中学校の先生が教科によっては小学校の状況を見てくださっているということはあると思いますが、そういう活動を増やしていくということも中1ギャップを防ぐような対策ではないかと思っています。

委員 先ほどもお話があったように、この時期ならうちの教員が3小学校それぞれの様子を見せてもらって情報交換をして、3月の終わりになりませんが小学校の先生に来ていただいて情報交換をするという形で、できるだけ入ってくる生徒の情報が共有できるようにしています。しかし、そ

こでノーマークの子が中学校に来て、環境がかなり変わりますから対応出来にくくなることもあります。小学校の時はそんなことは無かったのだけど、中学校で行きにくくなるという子も出てきています。原因はいろいろあるかと思いますが、小学校と比べ学習量も一気に増えます。それからいろんな活動も増えてくるし、そういったことを考えていくと、例えば前回も話させていただきましたが、高学年になったら教科によっては中学校の教員が授業をして、中学校に上がってきたときに、算数を教えてくれた先生が数学を教えてくれる、理科を教えてくれた先生が、中学校でも理科を教えてくれる、そういうふうに関係がいくらかでも出来て行けば、だいぶ子供たちの安心感は違うのかなという気はしています。

会長 久米南町でも中学校は対応してくれていると思いますが、小学校が3つあって、中学校は1つで、なかなか難しいかなと思います。そういう意味では小学校が統合されて1つになれば、ますます1対1でより連携を深めていかないといけない、これは間違いないということは皆さん同じ思いなのではないかと思います。そうして行かないと、なかなか久米南町が目指す教育の実現というのは難しいんじゃないかと言えらと思います。なぜこの問題を出させていただいたかと言うと、久米南町だけではなくて全国的に抱えている問題であって、そのあたりも含めて考えて欲しいなと思いました。

委員 自治会連合会から出ていますが、自治会組織というのは各地域でいろんな活動をしています。当然その中には小学生、中学生の子供さんがいらっしやいます。各自治会いろんな催し物を考えていますが、作業とか会合は大人が多いですが、できるだけ地域の子供たちが参加できるように工夫していますが、参加が少ないというか、以前は多かったよな、集まってきよったよなと皆で話しています。やはり、子供たちに元気が無いと、地域の活性、元気も出てきません。子供がおかれている環境は激変していますが、地域としては子供たちを本当に応援したい、これはどの地区でも自治会でも同じだと思う。これからの子どもたちを考えたら、統合していかんと厳しい状況だと皆さん感じていると思います。いろんな形で、地域は応援できると思う。この問題は地域も関心が高いことなので、いろんな場面で発信していかないと感じております。

委員 前回受けた印象としては、小中一貫ということが衝撃と言うか、いきなりそこへ行くのかと、連携教育というイメージで来てたので。津山でも岡山でも、中高一貫というのがあって、久米南町からもそこへ行かれる

方もいらっしゃるし、その中で小中一貫が出てきたのでびっくりしました。小中一貫校か義務教育学校かだったので。自分のイメージと会のイメージが違ったので。そういう流れにならないといけないのかなというところも若干あるんですけど、小中一貫校、義務教育学校、先生の転勤スパンは変わらないんですか。算数を教えてくれてても、中学校に行ったら違う先生でしたじゃ一緒なので。そういうところはどうなんですかね。

副会長 免許状の関係があるので、小学校と中学校両方の免許状がないと義務教育学校はできません。

会長 そういう先生が来てくれるのが望ましいと。これから義務教育学校は出来てくるところなので、義務教育学校に勤めるには二つの免許状が必要です。実際にはこれから過渡期ですから必ずしもそうでなければいけないというわけでは無いと思います。特別支援学校でも特別支援学校の免許がないといけないというわけではないですから。柔軟な形がとられていて、特に今学校の先生が少なくて、そんな制限を設けることが、それが理想ではあるんですけど。ご心配されているとおり、一貫というとか何かそこから出られないという感じがしますが、そういうわけではありません。小中一貫も中高一貫もこれまで通りあって、その出入りはもちろん自由で、これは間違いありません。一貫という言葉が、より一貫を強めていくと義務教育学校になって、一貫と言いながらも、小学校、中学校の連携を強化していきましょう、小中連携校という意味合いで留めるでは言い方が悪いかもしれませんが、一足飛びにはなかなか難しいという面もあって、小中連携校という言い方もいいと思います。でもそれは一貫校と言う範疇の中での連携校ということになります。そういう風な意味合いでとらえてもらえたらなと思います。あと、学校の先生は言いにくいかもしれないので私が言いますが、学校における働き方改革が非常に大きい問題になっていて、小学校、中学校の先生が過重労働だと、これは大きい国の問題です。そういう過重労働を防ぐためにも、小学校、中学校の先生が連携しながら取り組んで行こうという面もあると思います。これは先生の立場からは言いにくいでしょうからこちらから言わせていただきました。そういうことも連携しながら先生たちの普段をカバーしていこう、子供と同時に、先生たちも働きやすい学校というのも重要だと思います。このことも含めて委員の方々には検討していただきたいと思います。

委員 不登校の問題について、誕生寺支援学校の先生方と個人的に交流させていただいている中での話ですが、ご存じの通り障害を持たれた方がレ

ベルに依じて学級に入るというイメージだったのですが、今はもう本当に障害を持っておられる生徒が極めて少なく、むしろ不登校の方、いわゆるメンタル的な問題で入っている生徒が多いんですと、支援学校の先生から、これは私が勝手に言ってるわけではなく、支援学校の先生からお聞きしたことなので確かなことなんです。中1ギャップのお話なんです。どうなんですかと聞いたら、確かに前のところでは馴染めなかったかもしれないけど、今は普通に通学が出来ていると、毎日元気と言われていたので、今回統合の小学校を考えると、誕生寺支援学校もあるので連携もちゃんとやって行けば、そういうクラスを作るのか。

会長 ごめんなさい。ちょっと誤解があっちはいけないので、特別支援学校と公立の学校というのは組織というわけではありませんが違って、特別支援学校があるからと言って不登校の子がそっちに行けばいいというのではなくて。

委員 そういうわけでは無いです。連携をしていけばということで、小中一貫の連携の内容がどうこうというのではなくて、諮問事項にあるように、中学校を基準で作るのか、あるいは中学校から離れた場所で、連携が可能なのかどうか。昨今いろんな意味で、対面してなくてもオンラインで教師間の打ち合わせができる時代になって、そういう技術が出てきて、小中連携なんか一貫なんかごっちゃになってますけど、場所的なことなのか同じ併設するのか、離れた場所でも小中の連携がしっかりできるのであれば、小中連携になりえるのかということなんです。そこがないと、結局おのずとそれが決まると2番3番になってしまう、直結して。中学校基準で考えるというよりも、町の保育園、小学校、中学校、もう町の建設状況がダメだと思うんですけど、人口減になるということがわかっているんだから、そういうのを見据えて作っておかないと、ダメだった。今更言っても仕方ないけど。高学年からと言っておられましたが、統合の話になったときに、もし仮に中学校を作るんだったら4年生、5年生、6年生は中学校に通ったらと思ったんです。先生に来てもらうんじゃなくて、子供たちが通う。どのみち中学校1校ですから。専門的な先生から学べば中学校の雰囲気もわかるし、おのずとステップアップができて、そういう意味での中1ギャップというのは解消できるんじゃないかなと個人的に思います。

会長 教育関係者以外の方だったらそうすればいいんじゃないかと思われるんですけど、やっぱりこれは日本の文化というか、中学校は中学校、小学校は小学校。それはなぜかという、教員免許状が違うからです。免

許状が違くと、中学校の先生は小学校をみられない。なかなか簡単には行かない。だからこそ連携していかなければいけないという議論になります。小中連携、一貫と言うのは離れた場合でも、分離型でももちろん成り立ちます。ただ、これは久米南の事を言っているわけではなくて、全国的な調査研究によると、離れていても成り立つのだけど、離れているよりは隣接、隣接よりは併設の方が教育効果が高いというのがデータで出ています。子供にとっても先生にとってもアクセスは近い方が交流しやすいというのは当たり前ですよ。でも理論上は離れていてもできます。

委員 教育効果、学校教育というのがなんなのかなというのがあって、小学校、中学校と言うのが義務教育の範疇にあって、社会へ出るにあたって必要最小限の能力と言うか、そういうのを身に付けるというのが義務教育ではないかと思うんですが、教育効果と言うのが学問的効果なのか、人間的な成長も含めての教育効果なのか、それだったら方向性はおのずと決まってくるのでは。

会長 私の口からこうしなさいというのは言えません。委員の皆さんが今のこういう状況を考えて、この3つの中から久米南町の子どもたちにとって一番いいのはというのを考えて頂きたい。何がベターでベストかを。

委員 文字で見ればなるほどそうなのかなと。第1回目のときにいきなり小中が出てきたので。まずその形、義務教育の形、現行の形、それぞれの中での、資料に配られていましたが、校長先生の数だとか先生の配置がどうか、きめ細かい説明があったうえで審議会でどうするのかならいいと思うんですけど、一貫校、連携校がパッと出てきた中での審議会だったので、もう審議しなくても決まってるじゃないかということで、正直、戸惑いました。今日は現状とかのお話が伺えたので良かったですけど、そうすることでのメリット、デメリットもわかりませんし、その辺りを教えて頂ければ。小中連携と言うのが良いのかどうか。

会長 会長ではなく学識経験者という立場で言わして頂けるならば、小学校1校、中学校1校で学校が残るというのであれば、連携していくにこしたことはありません。それは私から言えば当然でしょうと。別々の学校でそれぞれあるんだけど、連携しないでいいということは無いと思う。だから統合するということになると、おのずと小学校と中学校は連携強化していかななくてはいけない、学識経験者の立場から言うと、当然の事だと。ただ久米南町の場合は、統合するということまでは決まっていて、その後が決まっていない。だからこそ皆さん方は統合した後の学校の形態を考えなければいけない。小学校1、中学校1になるのだったら連携

しないというのはいり得ないんじゃないかと思います。これまで以上に連携を進めて行く、久米南町の子どもたちをよりよくしていく、そういう改革でないと、子どもの数が減って行って、統合してピンチだと、ピンチだけど、このご時世に学校を新しくしようと、国の景気がいいわけではない時に、子供たちの環境を良くしていこうと前向きな議論と考えれば、連携していくということは。もう当たり前の事なんじゃないかなと私は思います。ただ、単独か、一貫校か、一貫校に連携を含めますよ、義務教育学校か、これを決めて行かないと設計の問題も出てきますので、しっかり議論して答えを出していくことが大切だと思います。

委員 質問なんですけど、一貫校と義務教育学校、それぞれのメリット、デメリットを教えてください。

会長 なかなか幅広くて、一貫校の中に連携があるように本当に幅広くて。でも一貫校と義務教育学校はそんなに違いが無いんです。例えば先ほどもあったように、新庄小、中学校は現実では義務教育学校ではありません。でも実態としては義務教育学校のように見えます。職員室も一緒だから。でも校長先生は別々にいる。義務教育学校に制度を変えても、すぐにも移行できそうな体制です。一貫校と義務教育学校はそこまで差はありませんと、とらえることが出来ると思います。

委員 そこは分かるんですが、極端な話、教員が少なくてもやっていけるのか。本町の一つの特徴としてなかなか教員がいないという実情があると思いますが。

会長 クラスの数によって変わってくると思います。ですから、義務教育学校であろうが小中一貫校であろうが、その数によって決まってくる。ただ、一緒に職員室にいれば一緒にやっ行って行こうという雰囲気はあるとは思いますが。義務教育学校にするのは一足飛びだということであれば、小中一貫校の取り組みでも、義務教育学校のような取り組みもできるという考え方もあると思います。新庄小、中学校のように。また旭や柵原のように一つの学園にしてしまうというのがあって、校長先生は一人だけれども、副校長先生はそれぞれに置いたりということを考えると、小中一貫校のようにも見える。義務教育学校と小中一貫校というのはそこまで違いはありません。

委員 子どもたちの意識の側からしたらどうでしょうか。今我々が形態について話をしていますが、子供たちにとってどのような違いがあるのですか。

会長 子どもを対象としたデータが少ないのが現状なのですが、小学校中学校の交流が進んで、小学生にとってちょっとお兄ちゃんお姉ちゃんと

の関りというか、我々の頃はたくさんあったと思うのですが、今は意図的に作っていかないと難しい時代になっています。ですから小学校では縦割り班というのがあって、遊んだり、掃除したりがあります。子供にとっては縦の中で切磋琢磨しながらという環境で、連携しながらというのが理想で、施設が分離しているよりも、近い方が子供たちも交流しやすいと思います。

委員 先ほどの付け足しで免許ですが、岡山県は小、中の免許を持っている率が他県に比べて非常に少ないです。小学校から中学校へ、中学校から小学校への異動を普通にされている県もありますが、岡山県は小学校はずっと小学校の先生、中学校は中学校先生が多いです。ただ最近この小中一貫の流れの中で、両方の免許を持っている人を育てていくことが必要じゃないかということも出ています。実際、新庄や義務教育学校がみんな小中の免許を持っているかということ、そういうわけではありません。今両方の免許を持っている人を育てたり配置したりということが重要だということが動き出しています。ただ数学の免許を持っている人が、小学校で算数を教えることは出来るんです。中学校の国語の免許を持っている人が、小学校の国語を教えることは出来ます。あと、教員数の事ですけど、久米南町の3小学校を1つにすると、教員の数はクラスの数によって決まります。法律で決まっていますので、3校が一緒になった時、何クラスできるかで決まります。中学校も何クラスになるかで教員数も決まります。もしも、一貫校になっても義務教育学校になってもこの数は変わりません。小学校プラス中学校の数がその学校の数になります。一緒になったら少なくなるとご心配かもしれませんが、そういうことはありません。数は確保されます。あと旭や柵原の準備会に呼ばれて行ったりもするのですが、ここは一步進んで、特色のある教育がしたいと。中1ギャップの解消をしたいということもありますが、かなり子どもの数が減って危機感を持っておられて、そんな中でそれぞれの独自の文化がある、これを子供たちに大切に伝えて行きたいと始まったのではと私は思っていて、柵原で言うと柵原ドリーム学というのを9年間でやろうと。これをやろうと思うと、授業の時数などがあって、義務教育学校だと変えやすいところがあって、小学校の低学年のうちほとんど柵原の事を知ってもらい、次に中学年から上になったら、どんどん地域に出て行って現場体験をさせよう、6年生から上になったら柵原の将来について考えて行こうと、9年間を通してのことがやり易くなっています。旭は英語を頑張っていこうと。

会長 どんな教育課程を作っていくか、学校の形態が決まって、答申が出た後

は、先生たちを中心に、保護者や地域の人にも協力してもらって、どんなカリキュラムにしていくかがもっと重要になってきます。まず枠組みを作っていないといけないので、学校種を決めて行かないといけません。柵原や旭にあるように、久米南町にも久米南学があって中学校で取り組んでいます。社会教育では未来商店街といういい取り組みがあります。今、久米南学は中学校の総合でやってますが、小学校も一緒に繋げて、縦で久米南学、小学校1年生から中学校3年までの9年間で一つのストーリーを持った縦のカリキュラムとして取り組もうじゃないか、こういうことが基にあるんだということを忘れてはいけません。3小学校がそれぞれ熱心に地域の学習をしていましたが、統合されたら久米南町という大きい傘の中で、誕生寺や弓削や神目のことを扱っていく、というふうなとらえ方をしていないといけないと思います。

委員 僕の中では前回のお話があって、統合するとなった段階で一貫校というのがあって、他の地域の事も新聞で見ている、統合するという事はこうなるんだろうなと個人の意見なんですけど思っていました。せっかく新しい、いいものを建てるのであれば、それにいいオプションを付けて、その中から学校の良い教育というのを選んであげれば。あとでこうやっておけば良かったというのが、建ててしまうと出来ないのです。前回の説明は、オプションをしっかり見せてくれて、それをどうやってくっ付けていった、子供たちにどうですかという話だったんだととらえている。小学校は1校になるし、中学校は1校しかないし、もう連携するしかないんじゃないかと思っています。カリキュラムは後で何とでもなると思うんです、久米南学も大事なことですし、こういうことを言ってもあれなんですけど、町民を増やさないとこの先無いじゃないですか。

会長 それは本当に大事なことです。例えばこの前奈義町が、総理大臣が来られて、奇跡の町ということで、これって、ああいう教育、子育てに力を入れていたらよそから転入してくるよと。久米南町が小学校が新しく変わって、カリキュラムが他にない魅力的な物ができれば、久米南町で、久米南学を先生方と勉強しながらリンクしていけば、久米南町に住みたいなと思ってくれる人がいるかもしれないし、そういうところを大切に、学校を作っていないといけないと思います。おっしゃるように、オプションを付けるならば単独校よりも連携校。ただ私の意見を言い過ぎかもしれませんが、義務教育学校にいきなりしてしまうと、元に戻れないということではないのですが、小中一貫校にしてから義務教育学校へのオプションはやり易いです。そういうふうに考えると、おのずと考えはまとまると思います。

委員 気になったことは、小中一貫にしても義務教育学校にしても中学校との関りが大きいと思うのですが、今の中学校を潰して新しい学校ということになりますか。

会長 今の中学校はそのままです。

委員 一体型となった場合は、今の中学校に増設することですか。

会長 単独校の場合は、せっかく作って連携をあまりしないではおかしいと思います。分離よりもさっき言ったように併設して連携とか、隣接したりした方が交流は進めやすいし、先生の日も行き届きやすい。

委員 中学校の近くに建てられますか。

事務局 久米南中学校を新設する際に、仮校舎をグラウンドに建てた経緯があります。久米南中学校の敷地内ということになりますと、グラウンドがつぶれるかもしれませんが、建設することは可能ではないかと思われま

委員 統合して人が集まって、今までできなかったことが出来るようになることは良いことだと思うが、グラウンドを潰すということは、ネガティブになるのではと思います。子供たちが駆け巡る姿を地域の方が見れば、応援しようかというふうになると思うが、どうしても建てたいのでグラウンドを潰させてとなると、個人的な意見ですが、グラウンドで広々と動く子供たちを見たい、させたいというか、もう仕方ないのであれば潰すしかないと思うんですが、

会長 潰す量にもよると思いますが、誤解のないようにしたいのですが、3つの小学校が統合されて新しい小学校になっても、小規模校であることは間違いありません。小規模校の小学校が、中学校のグラウンドに校舎を建てても、グラウンドは随分確保されるのではと思うのですが。

委員 どの程度の物を建てるかによるでしょうが、グラウンドを見て頂いたらわかるように十分広いように思います。

委員 だいぶ広いと思います。小学校なのである程度遊具もあるでしょうが、僕らが行ったところも余裕があった。

委員 今部活をするにしても、中学校の部活は野球部とテニス部と軽スポーツ。テニス部は場所が確保されているので十分では。小学校でスポーツ少年団の指導員をしています。1年から6年までみんなでワイワイやって良いなあと、指導員もみんなこういうのが良いなあと言っています。小学生はみんな知っている、兄弟がいなくても、中学校でも少年団で知ってるお兄ちゃん、お姉ちゃんがいる。安心できるので、少年団の子はギャップが少ないのかなと思う。合体して、スポ少とかで仲間が増えるし、なかなか肌に合わない人も出てくるかもしれませんが、その中でどうしたら波長の合う子を見つけられるか、というのが成長にもつながると思います。近

いところにあった方が。

委員 グランドに建てるとなると隣接ということ。

会長 新庄小、中のように隣接なんだけれども繋がっているというのもあります。これはこれからの設計図しだい。繋がった方が、小学生、中学生が一緒に学べる部屋、合同で使える部屋、例えば久米南学の発表を小学生も一緒に来て、これからみんなもやるよというような、一緒に学べる空間みたいな物ができればなど。おそらくいろんな設計の技術も進歩しているので、作って行ける、空間を共有できるような所をぜひ盛り込んでほしいなど。なおかつ、運動場はあまり削らずにという希望で。こういう要望は出せると思います。

委員 不登校に関する子供たちの、これを同一敷地に作った方がいいのか、それも考えないと。

会長 不登校が起きた後のことを、どうサポートするかを考えることは大切ですが、まずは不登校を起こさせないことを考えることが重要です。学校が嫌いで行きたくない子を減らすことを一番に考えて。国の方でも、不登校という問題はどの子にも起きる問題なんだと、その子自体の問題と言うよりも、将来の進路の問題や社会的自立の問題なんだと。かつての我々の時の登校拒否といった言い方がネガティブで、どの子にも起こりうる問題なんだというとならえ方をしていけないといけなくされています。おそらく小中連携になったとしても不登校の問題は出てくると思いますよ。出てきた後のサポートは、チーム学校と言いますが、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーの先生たちと、地域の方、民生委員の方とチームを作りながら、子供たちのサポートをどうするか、これは別のもう一方で考えていけないといけなく。でも我々は、まずは不登校を起こさせないような学校にしていこう、そういう授業づくりを皆で考えよう、これから校舎が決まれば考えていこうというのが優先順位になると思います。3つの小学校で少ない人数、中学校になって知らない子と会うよりかは、普段から隣接校で交流があって、小学生は良く知っている、中学生になっても顔見知りがある、という方が不安は少ないと、こういう学校種であった方が中1ギャップを少しでも和らげるというか、対策の一つではないかと思います。そう考えたとき、皆さんの意見をまとめるならば、義務教育学校は一足飛びな感じがすると、単独校で何もかも単独と言うよりは、連携していけないといけなく、ということは小中一貫が望ましいのではないかと、小中一貫についても、連携というところから始めて行きながら、小中連携一貫校という形が現実的ではないかと。連携一貫校とするのならば、建つ学校の場所は、中学校と隣接、併設がいいと、というこ

とは中学校の運動場を使って建設してもらおうと。今、国も GIGA スクールだとか、ICT 教育を進めていて、新しい学校になったらそういうことにも耐えうるようなことになっていけば、子供たちへのより良い教育が進んで行くと思います。そういう意味でも、小学校と中学校が隣接する形で、中学校の敷地の運動場にということでもまとめられると思うのですがいかがでしょうか。

委員　　なんですけど、南海トラフ地震のことをテレビで見ている、30年以内に岡山で震度4、震度5が来ると。場所的なことで、あそこは安全ですか。

会長　　地盤の問題ですか。

委員　　そういうことも踏まえて、複合施設の時に出た意見ですが、耐えられる場所なのか。この調査をきちんとしないと、もし起こった時に対応ができるのかどうか。統合の問題とは別かもしれませんが、来ると分かっている、備えとして。

事務局　答申を頂きましたら、建設の前には、おっしゃられたことの調査はさせて頂きます。学校ですので、万全を期したいと思います。

会長　　中学校は建っているわけですから。

委員　　グラウンドは昔からグラウンド。そこに何か建っていたことはない。

委員　　そんなことを踏まえて、建っている校舎の一部や近くでいいのかどうか。費用の事も出てくるので。

委員　　中学校に併設しないといけないんですか。例えば誕生寺が安全であれば誕生寺小に併設で中学校を建てたりとか。

会長　　中学校は比較的新しいですよ。

委員　　義務教育の話と言うのが、一足飛びじゃないかという話になるんですが、久米南学園ということで山の方に作ったり、町の運動公園のところで作るとか。

会長　　そうすると、中学校も新しく作るということですか。お金もかかりますが。

委員　　お金もかかるけど。

委員　　位置を決めますと言って、中学校が結果ダメでしたという時はどうなるのですか。グラウンドが。つまりどうなるんですかという話。

委員　　候補地は絞っておかないと、例えば誕生寺が一番山にありますからそのグラウンドにしますとか。

委員　　中学校を建てるときに調査しているので大丈夫だと思う。危ないところはどこも補強工事が入っていますから。地盤も含めて耐震にかかってないと。

委員　　学校があるところとグラウンドは一つの地盤です。ですので学校の方の

データを取っていればグラウンドも同じ。

会長 事務局の方で探してみてください。

事務局 調査いたします。

会長 次回までをお願いします。今皆さんが心配していることは、解決しないと答申しにくいので。

委員 他に無いですか。

事務局 現段階で中学校敷地内ならグラウンドの一部が候補地だと思います。委員の皆さんがご心配されているように、地盤の関係とか、調べてみないとわかりませんが、難しいということになりますと、その他で考えないといけないと思っています。

会長 子どもたちの安全が一番大切な点ですので、大規模な調査は出来ないのでしょうから、何か安心が確認できる資料をお願いします。そのうえで決めて行きたいと思います。今日はだんだん皆さんの意見がまとまってきましたが、皆さんが心配される点が出てきましたので、次回までに確認をお願いします。それで3つ目の問題なのですが、統合まではそれぞれ3つの学校でいいのか、それとも新校舎を前に仮でもいいから統合するのかわですが、子供たちの心理的な負担を考えれば、統合までは今の学校のままの方が、行ったり来たりさせるよりは負担は少ないと思うのですが。

委員 そうですね。

会長 新しい学校が出来るまでは、今の学校でということで、変化ということ言えば、行ったり来たりの負担が子供たちには大きくて、統合まではそれぞれでということで。統合までにも連携はできますから、先生どうし特に中心となって話し合ってもらわなければいけないと思います。そのための期間にしてもらえれば良いと思うし、このあたりは皆さんいかがですか。

委員 結局、時期の話だと思うのですが。

会長 次回で安全性の問題が解決されれば、3つの答申が出せますよね。早く答申できれば早く取り掛かれますよね。

委員 バス通学で今までよりも時間が掛かる子が多くなると思いますが、高学年はいいですが、低学年はトイレの問題がある。1時間はもたない。そうなったら中継地点を作って、学校まで届けなければならない。という事例が私の実家のところで声があつて。本当はそんなきめ細かいところのアンケートまでとって統合を進めて行けば、全てすつと決めれていけたらと思ったんですけど、そういうことも含めてアンケートを早急にお願いしたいのですが。まあどのみちやらざるおえないですが。

会長 中学校になれば今でも各地域からバスに乗って来ているわけで、低学

年ですね。久米南より広い地域で鏡野とかありますから、県北等の対応はどうですか。

委員 だいたい審議会の方針が決まれば、次は準備会が立ち上がって、例えば通学路の問題は本当におっしゃられるとおりで、どこからどこまでがバスを利用しようとか、この問題だけで一つ部会が立ち上がったり、校歌や校章とかも。カリキュラムは先生たちが話し合うことが多いです。校舎のデザイン、今みたいに皆さんが心配されているようなことが、準備会で話し合われます。学校に通えない子のための部屋とか、地域の人にもっと入ってきてもらうための部屋を作ろうとか、こんな学校にしたいというのがどんどん形になってきます。皆さんが心配されていることはとても大切な事で、そういうところに話が繋がっていけばいいなと思います。

会長 ご指摘の問題は大変大切な問題で、この会の問題ではなくなってきましたけど、次に繋がってきますので、そこでしっかり議論をしてもらって、よりよい学校ができたと思います。今日は皆さんが考えている事というか、思いというのはだいたい一致できたのではないかと思います。ただ1点、建設場所とその地盤ということを確認したいので、事務局でお願いします。このことが何か示すことが出来るときに第3回目を開催しましょう。そこで最終的な結論を出したいなと思いますがどうでしょうか。

委員 新小学校開校までの流れが、現実的な問題として、いつ開校が適切な時期なのかというか、設計で1年ぐらい、5月の申請、その後審査され工事となると、最短でどこで開校できるのか。この5月の申請は無理ですよ。なら、来年5月の申請で、いつできるのか。8年度あたりですかね。そのあたりが、3つ学校残して、あと何年我慢したらいいのというのが、子供たちすごく思うと思うんです。統合が決まっているのに、なぜ会えないのとか。

会長 事務局としてのスケジュール感は。次で答申が出せれば。最短で。

事務局 開校は先ほど言われていたあたりだと思われま。

委員 令和8年ですか。

事務局 はい。設計ができないと国への申請はできません。

会長 答申を出さないと設計も始まらないということです。運動場に建てることできるかという不安がありますので、資料を用意していただいて、それを基に話し合っ、できれば早めに答申を出したいと思います。その方向でいいですか。

委員 ただですね、3校の跡地の活用はどうなりますか。

会長 これは教育審議会ではないですね。これも重要な問題ですけど、諮問されてません。では、次回は資料が出来てから開催しましょう。